

フェイスブック(FB)

【セクター】 通信サービス

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

世界最大のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)運営企業です。「フェイスブック(Facebook)」、「インスタグラム (Instagram)」、「メッセンジャー(Messenger)」、「ワッツアップ(WhatsApp)」などを運営して、中国を除く世界のSNSサービスで圧倒的なシェアを保有しています。売上の99%を広告収入が占め、地域別には米国・カナダが48%を占めます(18年12月期)。4つのアプリ合計で毎日利用する人が約21億人に達します。主唱する暗号通貨「リブラ」は難航の一方、決済方法の指定を便利にする「Facebook Pay」を開始します。

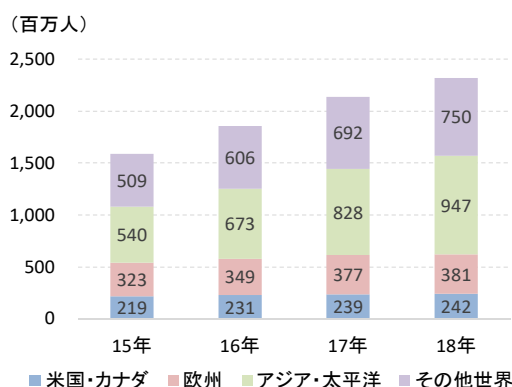
【業績】 (単位: 売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%)

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	40,653	18,193	6.16	0.00	25.6	27.2	88.0
18年12月期	55,838	22,111	7.57	0.00	29.5	27.9	86.4
19年12月期予想	70,439	27,051	9.16	0.00	35.7	21.9	-

※EPS: 1株当たり利益、DPS: 1株当たり配当、BPS: 1株当たり純資産、ROE: 株主資本利益率 (出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

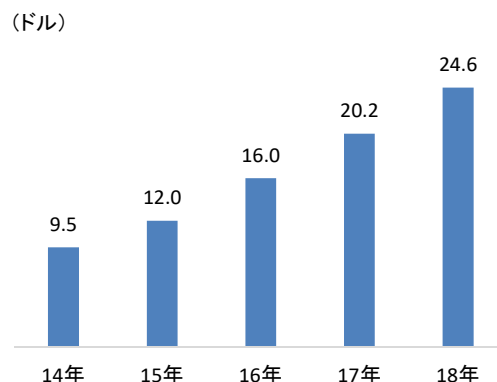
【主要指標】

図表1 「フェイスブック」の月間アクティブユーザー数



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 ユーザー当たり年間売上高



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

SNSはネットワーク効果(潜在的な顧客にとっての物やサービスの価値が、既にその物・サービスを利用している顧客の数に依存すること)が大きいことから、同分野で同様に追いつくのは非常に難しくなっていると考えられ、これが同社に質の高い利益成長を期待できる根拠となっています。データ流出事故の影響もあって広告単価の上昇は鈍っているものの、「フェイスブック」以外の事業の収益化により2割超の売上成長が維持されています。一方、現在進められている独占禁止法違反の調査は、「インスタグラム」「ワッツアップ」の買収までさかのぼって対象になるとされ、会社分割など深刻な結果を招く可能性がある点には注意が必要です。

【見通し・注目点】

7-9月期は、月間アクティブユーザーが前年同期比8%増、顧客当たり平均収入が同19%増、売上が同29%増など、4-6月期に続いて好調でした。個人情報漏洩問題は「フェイスブック」の広告事業に若干の影響が出て「インスタグラム」や「メッセンジャー」の収益化が相殺されているとみられます。ただ、独禁法違反の調査が重しになり、業績の割に株価の反応が鈍くなっていると言えそうです。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/11/13)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。